

# 一署一品運動等への取り組み

神岡営林署 生産係長 松田 成生

## 1. はじめに

国有林野事業の経営改善を進めるなかで、収支の改善は最も重要な課題となっている。このため、当署では恵まれた立地条件と資源を有効に活用することとし収入確保の地道な努力を積み重ねてきた。

その一環として「斬新な発想と一工夫運動の推進により未利用資源を見直し、木製加工品の開発と新たな副産物の掘り起こし等」を業務方針に掲げ、収入確保と国有林野事業のPRを図るため、職員一人ひとりがアイデアを出し合い、その達成に努めてきたのでその取り組み状況について報告する。

## 2. 一署一品運動の取り組み

当署における一署一品運動の取り組みについては、製品生産事業に伴って生産される打ち出し木等で従来利用価値が見出せず放置されているものを有効に活用できないかという発想からスタートした。

活用の方法は、職員から提案されたアイデアをもとに、通常業務の合間を利用し木製加工品の製作に取り掛かった。

製作した木製加工品については、営林支局主催のウッディランドフェアや地元開催の商工祭、朝市等に参画し展示販売を行った。これらの製品は、木の温もりや素朴なデザインが好評で、現在では注文による製作販売も多くなり、多くの人達に木の良さを理解していただくよい機会となっている。  
(写真-1参照)

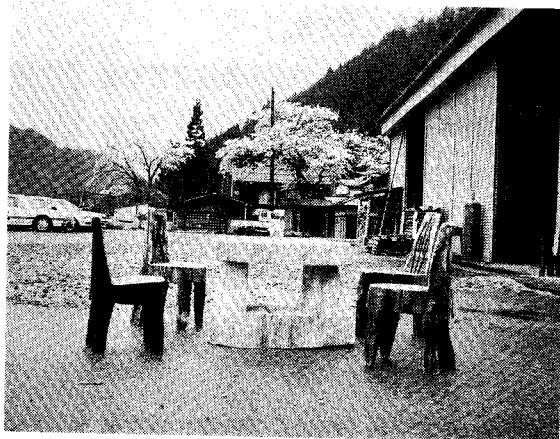


写真-1 一番人気商品の木製椅子、  
テーブルのセット

(1) 販売実績

表-1は過去3ケ年間に於ける販売実績である。年々職員によるアイデアの提案が増えるにつれ、製作品目も多様となり、販売額は平成元年度を100とした場合2年度324%、3年度見込み355%と向上している。

以上が、一署一品運動の取り組み状況であるが、今後も新商品の開発に取り組み、木の良さを理解していただきながら、地域に根ざした国有林のPRに努めていく考えである。

3. 特定事業

(1) 看板製作

当署管内は北アルプスへの観光・登山の拠点となっていることから、登山案内標識や高山植物保護標識等を製作し設置してきた。

その結果、これらが山小屋経営者や温泉旅館等地域の人達の目にとまり「金属性の物に比べて木製品は自然的で温もりがある」と大変な好評を得、現在では温泉旅館やドライブインは勿論のこと林業関係者や官公庁等からの受注があるなどの広範にわたっている。

こうした実績を踏まえて冬期の特定事業として位置づけ、製作販売している。

(写真-2参照)

(表-1) 一署一品運動 平成元年度-3年度販売実績表

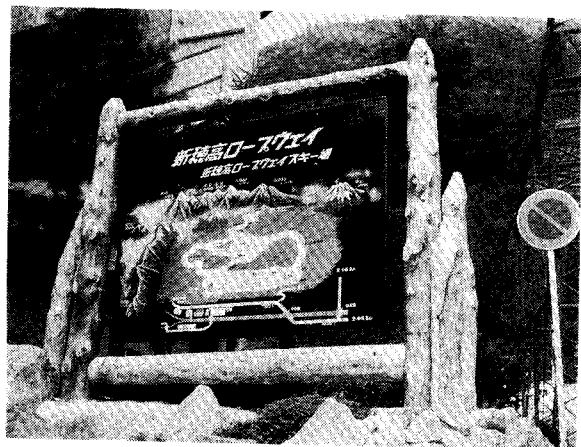
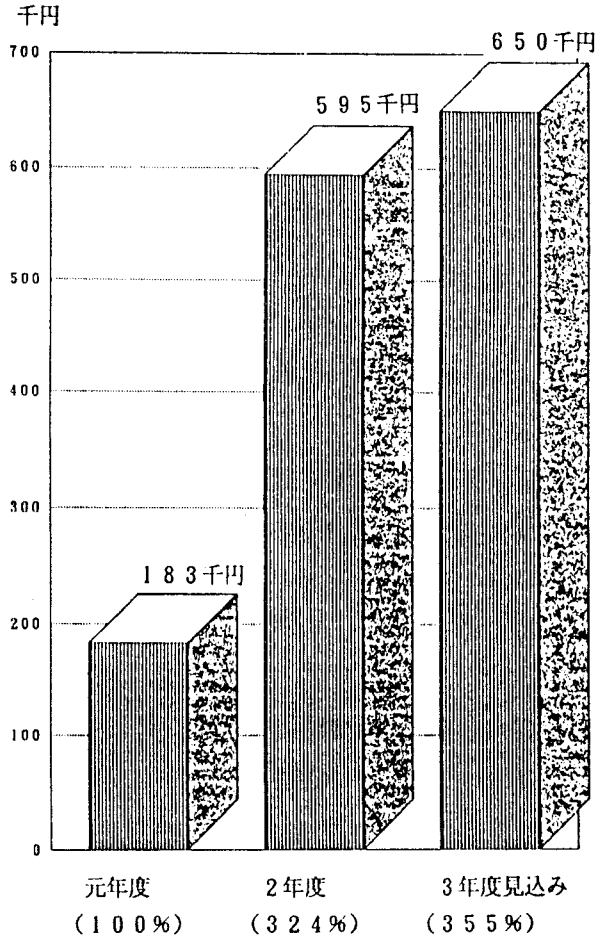


写真-2 看板の代表作

このように、当署における特殊技術を生かした看板製作の拡大と、収入増大に今後も積極的に取り組んで行くこととしている。

## (2) 薪製作

薪については、これまで大半を自署用として製作してきた。そこで薪製作が収入確保の一助とならないかと考え、販路開拓のため情報収集に努めてきた。その結果、飛騨地域に普及しているアンデルセンストーブは、薪の温もりとインテリア指向の高まりと共に売れ行きは好調で、年間50台程度販売されていることがわかった。

このことから、ストーブ販売特約店と連携を図り販路の拡大に努めてきた。また、地元で開催するイベント等を活用しPRした結果、2年度製作の薪が一棚3万3千円の定価で販売でき47万6千円の収入を得ることもできた。

今後の需要についてはストーブの販売普及状況からみても拡大することが確実であるので今年も冬山の特定事業として70棚製作する計画である。

## (3) 販売実績

表-2は年度別に販売した販売額の推移を表したものである。

ア. 看板の販売額は順調に推移している。

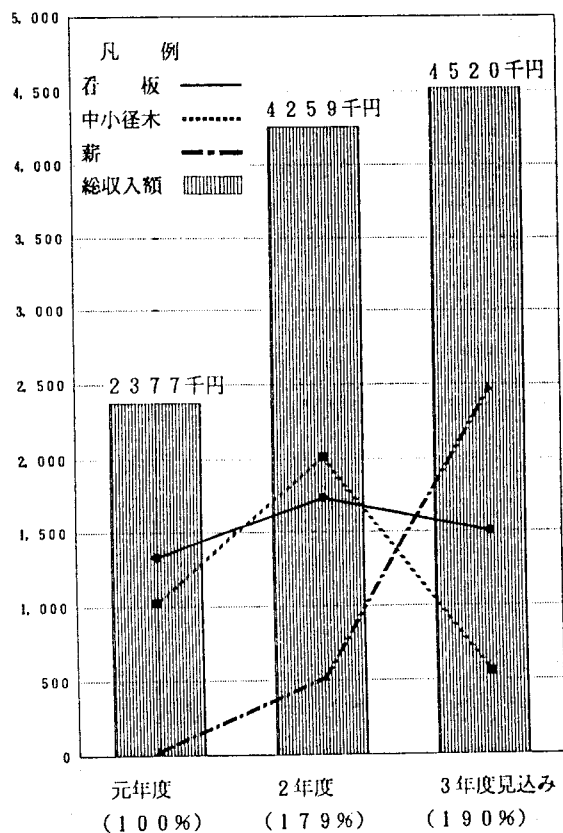
イ. 中小径木の販売額は、対象地が年々減少傾向にあり、増収は見込めない状況となっている。

ウ. 薪の販売額は、前期のとおりに増大傾向にある。

エ. 特定事業の総収入については平成元年度を100とした場合、2年度は179%、3年度見込みは190%となり収入は大幅に増大した。

この結果については、特定事業内容を見直し、収益性等に検討を加え計画的に実行した結果である。

(表-2) 特定事業年度別製作に係る販売額の推移  
千円



以上が特定事業における販売結果であるが今後の課題として、火持ちの良い広葉樹資材の確保である。薪1棚製作するために1.18㎡の素材量が必要であり、製品生産資材より利用することを検討した。

表-3は素材販売と薪販売の比較表である。販売単価はL低資材は9,498円。薪では㎡当たり13,339円となり、従って収益額は薪の方が3,841円高くなる。この結果からも、薪として販売することが有利であると考ええる。

(表-3) 素材販売と薪販売の比較

	L低質材 (㎡当たり単価)	薪 (㎡当たり単価)	備 考
資 材	製品生産資材	製品生産資材	
搬 出	生産 (直・直)	特定 (直・直)	
運搬費	0	(3,650)	運搬費は素材契約単価による
製作費	0	14,627	工程 0、826 ㎡/人 労賃 12,082 円/人
事業費計	0	14,627	
販売単価	9,498	27,966	33,000/棚
収益額	9,498	13,339	収益差 3,841円

以上、特定事業の取り組み状況について報告したが、今後のあり方として、1人1日当たりの付加価値生産額が一定額以上を上回ることを目標にし、特定品目の検討と収益性の向上に努めたいと考える。

その外、収入確保対策として遊休施設等について有償で貸し付け、その貸付料454千円の収入を得るなど、その他の面においても収入の増大に努めている。

#### 4. おわりに

当署の一署1品運動は小さな取り組みであり、どこの署でも実行されているところであるが長年の積み重ねによって培った神岡営林署の「木製加工品」の実績。そして、各種イベントでの引き合いや多くの受注に応えるため、アイデア商品の開発に努め資源の有効活用と収入の増大に取り組んでまいりたいと考えている。

また、特定事業においても、地域に定着した生産品目の強さを生かし、更に販路の拡大と付加価値生産額の向上に努めてまいりたいと考えている。

こうした運動への取り組みを通じて、職員の連携による職場の活性化や、地域とのふれあいが感じられるなど、収入面以外の成果も大きいと考えている。

今後も職員一丸となった取り組みを通じ、収入確保・国有林野事業のPR等に努めて行く考えである。